

## 平成27年度 総務常任委員会 管外視察の概要

- 視察日程 平成27年11月4日（水）～6日（金） 2泊3日
- 視察者 総務常任委員会（6名）  
高野洋介（委員長）、瀧上陽一（副委員長）、池田和貴、西聖一、  
西山宗孝、山本伸裕
- 視察先 北海道（帯広市、札幌市、千歳市）
- 視察趣旨 以下の内容について、今後の委員会審議の参考とするため、視察を実施した。
  - ①帯広市議会（帯広市）
    - ・熊本県が取り組む「県南フードバレー」の先行事例である「フードバレーとかち」の取り組みについての調査
  - ②株式会社AIRDO（札幌市）
    - ・平成27年9月に運航された札幌～熊本チャーター便について、実施に至った経緯や実施状況等についての調査
  - ③北海道議会（札幌市）
    - ・北海道の財政状況の調査
    - ・夕張市の財政再建と地域再生に向けた夕張市・北海道の取り組み状況についての調査
  - ④北海道空港株式会社（千歳市）
    - ・新千歳空港の運営に関し、旅客機利用者だけでなく地域にも利用される空港としての施設整備等についての調査

### ■視察の概要

#### ①帯広市役所

「フードバレーとかち」は、平成22年度にスタートし、国際戦略特区やバイオマス産業都市への指定等、国の施策等も活用し、帯広市の強いリーダーシップのもと、農業の成長産業化、地域ブランドの確立、農産物の付加価値化等を目指し、周辺自治体や教育機関、研究機関等と協力しながら事業が展開されている。さらに、人材育成面でも、



「十勝人チャレンジ支援事業」として、民間からの寄付（年間1千万円）を活用し、毎年10名程度が欧米諸国を訪問、各自で選定したテーマを研究する将来を担う産業人育成を目指した事業として平成25年度から進められており、派遣者は、その後、地元中学校での特別授業も行っている。このほか、地元JAとの連携状況や、ICT活用や特産物の輸出等による農業の「成長産業化」を目指した取り組みなどの今後の展開予定等についても確認した。

## ②株式会社AIRDO

平成27年9月に運航された熊本・新千歳間のチャーター便については、熊本の旅行社から企画が持ち込まれたのをきっかけに実現し、9月19日、22日の両日、新千歳・熊本両空港間の往復便として実施。搭乗率は、新千歳発が85%、熊本発が99%という結果を確認した。また、新たな需要の掘り起こしなど、今後の展開について意見を交換した。



## ③北海道議会

夕張市が財政再建団体となった経緯や要因、再建・地域再生に向けた取り組み状況等について確認した。市職員が9年間で220人から78人へと減少する中、北海道から補助金創設や職員派遣等の支援を受けながら、市民の要望等を踏まえ再構築した事業や地域活性化のための「コンパクトシティ」への取り組み等、数十項目の懸案事項を整理し、財政再建に取り組まれている。その上で、国、北海道、夕張市の三者協議により、優先順位の高い項目について、毎年、認識の共有化、財政再建計画への反映が図られている。



## ④北海道空港株式会社

これまでの空港整備の経緯や、同社が取り組む「航空機利用者だけでなく地域にも利用される空港施設」を目指した整備状況、空港施設を活用した国際映画祭(参加者3万人規模)等のイベント開催状況、北海道庁と連携した路線誘致への取り組み体制等について確認した。

